

2019年3月期 第3四半期 決算説明会

富士フイルム ホールディングス株式会社

2019年2月7日

本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は、様々な要因によりこれらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おください。

富士フイルムホールディングス株式会社 2019年3月期 第3四半期決算について、説明させていただきます。

2019年3月期第3四半期(9ヵ月)決算のポイント

計画比：営業利益が順調に進捗

前年同期比：売上は横ばいも、営業利益は大幅増益

事業別 業績 (前年同期比)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 売上 低採算のローエンドプリンタービジネスを縮小させたことなどによりドキュメント事業が減収となるも、メディカルシステム事業、バイオCDMO事業、再生医療事業、電子材料事業が伸長
	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 営業利益 メディカルシステム事業、バイオCDMO事業の増収などによるヘルスケア、および、電子材料事業が大幅増益 ドキュメント事業でも収益性の改善や構造改革効果により大幅増益
特記 事項 (3Q)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 第3四半期(3ヶ月)の営業利益は、過去最高益の744億円 ✓ 1,000億円を上限とする自己株式取得は、12月末時点で532億円、累計で754億円

2019年3月期 第3四半期決算について、ポイントを説明します。

2019年3月期 第3四半期の業績は

計画比で、売上、営業利益ともに順調に進捗しました。

前年同期比では、売上は横ばい、営業利益は大幅に増益となりました。

事業別の業績について、売上は、メディカルシステム事業、バイオCDMO事業、再生医療事業、電子材料事業が伸長しました。

体質強化のために低採算のローエンドプリンタービジネスを縮小させたことなどによりドキュメント事業が減収となりましたが、これらのドキュメント事業のマイナス影響を除くと、増収となりました。

また、営業利益は、メディカルシステム事業、バイオCDMO事業、電子材料事業などが増益、ドキュメント事業が8割以上の大幅増益となりました。

なお、第3四半期、3ヶ月の営業利益は、過去最高益の744億円となりました。

1,000億円を上限とする自己株式の取得状況は、12月末時点で532億円、累計で754億円を取得しました。

2019年3月期 第3四半期 業績 (2018年4月～12月)

(単位：億円)

	9カ月累計				
	修正後 ※ 2018年3月期	2019年3月期	対修正後 2018年3月期	為替影響	為替影響除く
売上高	18,097 100.0%	17,998 100.0%	-99 -0.5%	-120	21 +0.1%
営業利益	1,232 6.8%	1,583 8.8%	351 +28.6%	-41	392 +31.9%
税金等調整前 四半期純利益	1,745 9.6%	1,546 8.6%	-199 -11.4%	-73	-126 -7.3%
当社株主帰属 四半期純利益	1,245 6.9%	1,011 5.6%	-234 -18.8%	-50	-184 -14.8%
1株当たり 当社株主帰属 四半期純利益	284.49円	236.96円	-47.53円		
為替 : 米ドル	112円	111円	1円高		
: ユーロ	129円	129円	-		

<その他増減要因 (対前年度)> 営業利益における原材料価格影響：-11億円

※米国会計基準の変更に伴い、期間年金費用及び期間退職後給付費用の表示区分の変更を遡及適用しています。

3

次に、2019年3月期第3四半期業績の詳細を説明します。

売上高は、前年同期比で横ばいの1兆7,998億円となりました。

営業利益は、ドキュメント事業における構造改革の効果に加え、ドキュメント事業を含む各事業において収益性の改善を進めたことにより、前年比28.6%増の1,583億円となりました。

税金等調整前四半期純利益は、昨年度に和光純薬工業の連結子会社化による和光株式の評価益約200億円を計上していたこと、今年度からの会計基準変更で投資有価証券の評価損をマイナス54億円計上したことなどにより、前年比11.4%減の1,546億円、

また、当社株主帰属四半期純利益は、前年比18.8%減の1,011億円となりました。

セグメント別 連結売上高／営業利益

(単位：億円)

売上高	9ヶ月		対前年度	為替影響	為替影響除く
	2018年 3月期	2019年 3月期			
イメージング	2,977	3,038	61 (+2.1%)	-27	88 (+2.9%)
ヘルスケア	3,091	3,429	338 (+10.9%)	-24	362 (+11.7%)
ヘルスケア&マテリアルズ	7,283	7,589	306 (+4.2%)	-38	344 (+4.7%)
ドキュメント	7,837	7,371	-466 (-5.9%)	-55	-411 (-5.2%)
合計	18,097	17,998	-99 (-0.5%)	-120	21 (+0.1%)

*セグメント間取引消去後

(単位：億円)

営業利益	9ヶ月		対前年度	為替影響	為替影響除く
	修正後 2018年 3月期	2019年 3月期			
イメージング	499	480	-19 (-3.8%)	-11	-8 (-1.6%)
ヘルスケア	64	174	110 (2.7倍)	-10	120 (2.9倍)
ヘルスケア&マテリアルズ	598	700	102 (+17.0%)	-15	117 (+19.5%)
ドキュメント	367	669	302 (+82.2%)	-15	317 (+86.2%)
全社/連結調整	-232	-266	-34 -	0	-34 -
合計	1,232	1,583	351 (+28.6%)	-41	392 (+31.9%)

続いて、セグメント別の状況について説明します。

イメージング ソリューション部門の売上高は、

前年比2.1%増の3,038億円、

営業利益は、販促・宣伝費、研究開発費の先行投資などにより前年比3.8%減の480億円となりました。

ヘルスケア&マテリアルズ ソリューション部門の売上高は、

前年比4.2%増の7,589億円、

営業利益は、増収に伴う利益の伸長により、

前年比17.0%増の700億円となりました。

同部門のうち、ヘルスケアの売上高は

前年比10.9%増の3,429億円、

営業利益は、対前年2.7倍の174億円となりました。

ドキュメント ソリューション部門の売上高は、

低採算ローエンドプリンタービジネスを縮小させたことなどにより

前年比5.9%減の7,371億円、

営業利益は収益性の改善や構造改革効果により前年比82.2%増の669億円となりました。

セグメント別 概況

■ イメージング ソリューション

売上高	対前年度		営業利益	対前年度	
	金額	増減率		金額	増減率
3,038	61	(+2.1%)	480	-19	(-3.8%)

(単位：億円)

- ・ フォトイメージングでは、インスタントカメラ「チェキ」とチェキフィルムのインスタントフォトシステムの販売が好調に推移。インスタントカメラ「instax SQUARE SQ20」やテイラースウィフトさんを起用したグローバルプロモーションなどが売上増加に寄与。
- ・ チェキの9か月累計販売台数は850万台。
- ・ 電子映像では、9月に発売した「FUJIFILM X-T3」の高速・高精度AFや高い動画性能が評価され、販売が好調。11月には、中判ミラーレスデジタルカメラ「GFXシリーズ」のラインアップに小型・軽量化とシンプルな操作性を実現した「FUJIFILM GFX 50R」を追加。
- ・ 光学デバイスでは、車載用など各種産業用レンズの販売が堅調に推移。10月にマシンビジョンカメラ用レンズの超高解像度モデルの発売及び監視カメラ市場への参入を発表するなど、ビジネス領域を拡大し、事業成長を図る。

**売上は、各事業で販売が堅調に推移し増加
営業利益は、販促・宣伝費や研究開発費の投入で減少**

イメージング ソリューション部門について説明します。

フォトイメージングでは、インスタントカメラ「チェキ」、チェキ用フィルムなどのインスタントフォトシステムの販売が好調に推移し、3Qまでの累計でチェキの販売台数は850万台となりました。プリント前の画像編集・加工が可能な新製品のハイブリッドインスタントカメラ「instax SQUARE SQ20」やinstaxグローバルパートナーである「テイラースウィフト」さんを起用したグローバルプロモーションが売上増加に寄与しました。

電子映像は、今年度活性化したミラーレス市場で販売が引き続き好調に推移しました。9月に発売した「FUJIFILM X-T3」が、小型軽量ボディや、高速・高精度のオートフォーカス、高い動画性能が評価され、売上の増加に貢献、11月には、大型センサーを搭載した中判ミラーレスカメラ「FUJIFILM GFX 50R」を発売しました。超高画質と機動性の両立を実現したことで高い評価を得ています。

光学デバイスでは、車載用など各種産業用レンズの販売が堅調に推移しました。10月にマシンビジョンカメラ用レンズの超高解像度モデルの発売や監視カメラ市場への新規参入を発表するなど、ビジネス領域を拡大し、事業成長を図っています。

イメージング ソリューション部門は、各事業で販売が堅調に推移し、売上が増加しました。一層の拡販のための販促・宣伝費や次世代製品の研究開発費を投入したことなどにより、営業利益は減少しました。

セグメント別 概況

ヘルスケア&マテリアルズ
ソリューション

(単位: 億円)					
売上高	対前年度		営業利益	対前年度	
7,589	306	(+4.2%)	700	102	(+17.0%)

- ・ メディカルシステムはX線画像診断や内視鏡などすべての分野で販売が好調に推移。バイオCDMOは、設備増強によりバイオ医薬品の開発・製造受託が増加。再生医療は、6月に連結子会社化した培地のリーディングカンパニーFUJIFILM Irvine Scientific が寄与し、売上が大幅に増加。
- ・ 高機能材料で、ディスプレイ材料はタック製品の販売が堅調に推移したことに加え、タッチパネル分野の製品販売が好調に推移。
- ・ 電子材料はフォトレジストやフォトリソ周辺材料の先端製品を中心に販売が好調に推移し、売上が増加。
- ・ グラフィックシステムは、製版・刷版材料の総需要減により売上は減少。

メディカルシステム事業、バイオCDMO事業、
再生医療事業、電子材料事業などが増収をけん引
営業利益は、各事業の収益性改善により増加

続いて、ヘルスケア&マテリアルズ ソリューション部門です。

ヘルスケアのうち、
メディカルシステムは、X線画像診断や内視鏡などすべての分野で販売が好調に推移しました。バイオCDMOは、昨年より実施している設備増強によってバイオ医薬品のプロセス開発受託および製造受託が増加、
再生医療では、6月に連結子会社化した培地のリーディングカンパニー「FUJIFILM Irvine Scientific」が寄与し、売上が増加しました。

高機能材料のうち、
ディスプレイ材料は、タック製品の販売が堅調だったことに加え、タッチパネル分野の製品販売も好調に推移しました。
電子材料は、フォトレジストやフォトリソ周辺材料の先端製品を中心に販売が好調に推移し、売上が増加しました。また、米国拠点に総額100億円を投資し、最先端半導体材料の開発・生産・品質保証を目的とする設備増強を決定。さらなる事業拡大を図ります。

グラフィックシステムでは、製版・刷版材料の総需要減により売上は減少しました。刷版材料分野では、新聞印刷用無処理版の新製品を販売開始するなど、高い環境性能を持つ無処理版などの高付加価値製品の拡販を進めていきます。

ヘルスケア&マテリアルズ ソリューション部門は、メディカルシステム事業やバイオCDMO事業、再生医療事業、電子材料事業などで売上を伸ばしたことにより増収。営業利益は、各事業の収益性改善などにより増加しました。

セグメント別 概況

■ ドキュメント ソリューション

		(単位：億円)	
売上高	対前年度	営業利益	対前年度
7,371	-466 (-5.9%)	669	302 (+82.2%)

- ・ オフィスプロダクト分野では、全体の販売台数は減少したが、中国市場向けに開発した複合機の販売が堅調に推移。
オフィスプリンター分野では、低採算のプリンタービジネスを縮小。
- ・ プロダクションサービスは、基幹システム向けプリンターの販売が減少したが、高速・高画質のカラー・オンデマンド・パブリッシング機「Iridesse™ Production Press」の販売が欧米を中心に好調に推移。
- ・ ソリューション&サービスは、売上計上方法の変更などの影響により、全体の売上は対前年で減少したが、業種・業務別ソリューションやBPO契約による売上が堅調に推移。

低採算のローエンドプリンタービジネスの縮小等により減収も、
構造改革の効果や収益性の改善により大幅増益

最後に、ドキュメント ソリューション部門について説明します。

オフィスプロダクト&プリンターのオフィスプロダクト分野では、全体の販売台数は減少しましたが、中国市場向けに開発した小型複合機の販売が堅調に推移しました。オフィスプリンター分野では低採算のローエンドプリンタービジネスの縮小により、販売台数が減少しました。

プロダクションサービスは、全体の販売台数は減少しましたが、カラー・オンデマンド・パブリッシング機「Iridesse™ Production Press」の販売が欧米を中心に好調に推移しました。また、2019年1月にオフセット印刷の画質に迫る商業印刷向け高速ロール紙カラーインクジェットプリンター「11000 Inkjet Press」を発表。2019年2月より国内で販売を開始し、商業印刷市場のデジタル化をさらに拡大します。

ソリューション&サービスは、BPO(Business Process Outsourcing)契約の売上が堅調に推移しましたが、売上計上方法の変更などの影響により、全体の売上は対前年で減少しました。新しい価値提供戦略「Smart Work Innovation」のもと、お客様の業務効率化や生産性向上を支援するサービスを順次提供し、サービス領域での更なる成長を目指します。

ドキュメント ソリューション部門の売上高は、低採算のローエンドプリンタービジネスの縮小などにより減収となりました。営業利益は、構造改革の効果や収益性の改善などにより、大幅増益となりました。引き続き、ソリューション&サービス、プロダクションサービスなど成長領域の拡大に努めるとともに、構造改革を完遂し、収益性を高めていきます。

連結貸借対照表

(単位：億円)									
	17年 3月期末	18年 3月期末	18年 12月末	対18年 3月期末		17年 3月期末	18年 3月期末	18年 12月末	対18年 3月期末
現金 及び現金同等物	8,760	7,682	6,496	-1,186	長短社債 及び借入金	5,588	4,542	5,484	942
受取債権	6,358	6,191	5,961	-230	支払債務	2,579	2,485	2,367	-118
棚卸資産	3,392	3,613	4,033	420	その他流動 固定負債	4,484	4,915	3,862	-1,053
その他流動資産	1,838	1,122	967	-155	負債計	12,651	11,942	11,713	-229
流動資産計	20,348	18,608	17,457	-1,151	株主資本計	20,436	20,791	20,412	-379
有形固定資産	5,206	5,375	5,209	-166	非支配持分	2,245	2,196	2,009	-187
営業権	4,998	5,916	6,547	631	純資産計	22,681	22,987	22,421	-566
投資有価証券 その他資産	4,780	5,030	4,921	-109	負債・純資産 合計	35,332	34,929	34,134	-795
固定資産計	14,984	16,321	16,677	356	(単位：円)				
資産合計	35,332	34,929	34,134	-795	期末日 為替レート	17年 3月期末	18年 3月期末	18年 12月末	対18年 3月期末
					米ドル	112	106	111	5円安
					ユーロ	120	131	127	4円高

次に、バランスシートについて説明します。

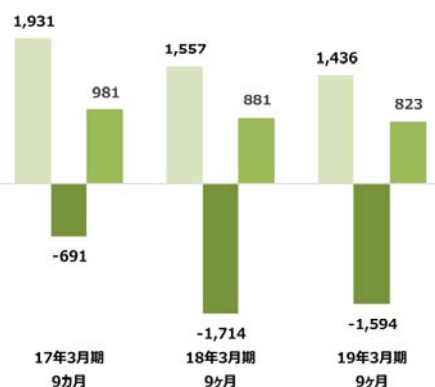
2019年3月期12月末時点の資産合計は、現金及び現金同等物の減少などにより、2018年3月期末時点と比べ、795億円減の3兆4,134億円となりました。

負債は229億円減の1兆1,713億円、株主資本は379億円減の2兆412億円となりました。

流動比率は、9.4ポイント増の289.5%、負債比率は前期末と同じ57.4%、株主資本比率は0.3ポイント増の59.8%となりました。

キャッシュ・フロー

■ 営業活動によるキャッシュ・フロー
■ 投資活動によるキャッシュ・フロー
■ フリー・キャッシュ・フロー (事業買収等除く)
 (単位: 億円)



	(単位: 億円)		
	17年3月期 9か月	18年3月期 9か月	19年3月期 9か月
四半期純利益	896	1,339	1,144
減価償却費	896	953	956
受取債権の増(-)減(+)	364	478	203
棚卸資産の増(-)減(+)	-175	-351	-412
営業債務の増(+)-減(-)	-90	-306	-60
その他	40	-556	-395
営業活動によるC F	1,931	1,557	1,436
設備投資	-555	-484	-471
ソフトウェアの購入	-154	-124	-137
有価証券・投資有価証券等の 売却・購入	272	231	-138
事業買収	-13	-1,269	-843
その他	-241	-68	-5
投資活動によるC F	-691	-1,714	-1,594
フリー・キャッシュ・フロー	1,240	-157	-158
事業買収等を除くフリー・キャッシュ・フロー※	981	881	823

※フリー・キャッシュ・フローから、事業買収および有価証券・投資有価証券等の売却・購入を控除しています。

9

続いて、キャッシュ・フローについて説明します。

営業活動によるキャッシュ・フローは、1,436億円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、Irvine Scientific Sales Companyとアイエスジャパンの買収などにより、1,594億円の支出となりました。

この結果、事業買収等を除くフリー・キャッシュ・フローは、823億円の収入となりました。

2019年3月期 第3四半期 決算説明会

富士ゼロックスにおける構造改革

次に、当社子会社の富士ゼロックスにおける構造改革について説明します。

富士ゼロックスにおける構造改革

構造改革は順調に進捗、9ヵ月で180億円の効果を実現
新たな成長領域において事業基盤を確立

	2018年3月期 実績	2019年3月期 計画	2020年3月期 計画
構造改革費用等一時費用	700億円(通期)	250億円	60億円
効果(対2017年3月期)	-	270億円	550億円

2019年3月期	1Q実績	2Q実績	3Q実績	9ヵ月累計 実績
構造改革費用等 一時費用	33億円	18億円	33億円	84億円
効果 (対2017年3月期)	10億円	75億円	95億円	180億円

昨年1月31日に発表しました富士ゼロックスにおける構造改革について、進捗をご報告いたします。

2019年3月期第3四半期までの構造改革費用等一時費用は84億円となりました。
また、構造改革の効果は180億円となりました。

本構造改革を確実に実行することで、コスト削減を実現し、市場の変化・競争に耐える収益性・生産性を確保しつつ、新たな成長領域へ再投資し、持続的な成長を実現できる事業基盤を確立します。

以上、2019年3月期第3四半期決算についてご説明いたしました。

2019年3月期 第3四半期 決算説明会

通期業績予想

2019年3月期の連結業績予想について説明します。

2019年3月期 連結業績予想 (2019年2月7日時点)

(単位：億円)

	修正後 2018年3月期	2019年3月期	対前年度
売上高	24,334 100%	24,700 100%	366 +1.5%
一時費用除く 営業利益	1,933	2,250	317
構造改革費用等 一時費用	-700	-250	450
営業利益	1,233 5.1%	2,000 8.1%	767 +62.2%
税金等調整前 当期純利益	1,978 8.1%	2,050 8.3%	72 +3.6%
当社株主帰属 当期純利益	1,407 5.8%	1,300 5.3%	-107 -7.6%
1株当たり 当社株主帰属 当期純利益	322.62円	305.31円	-17.31円
ROE	6.8%	6.2%	-0.6%
為替 : 米ドル	111円	111円	-
: ユーロ	130円	130円	-
銀価格 (/kg)	61,000円	57,000円	-4,000円

* 2019年3月期
営業利益為替感応度
米ドル：8億円
ユーロ：8億円

13

2019年3月期の連結業績予想ですが、昨年11月7日に発表しました予想から変更しておりません。

通期業績予想達成に向けて、引き続き成長戦略を推進するとともに、さらなる拡販と収益性の改善を強力に進めていきます。

尚、昨年8月より開始した1,000億円を上限とする自己株式取得は計画通り進捗しています。

2019年3月期の配当金は、9期連続増配となる対前年5円増配の1株当たり80円を予定しております。

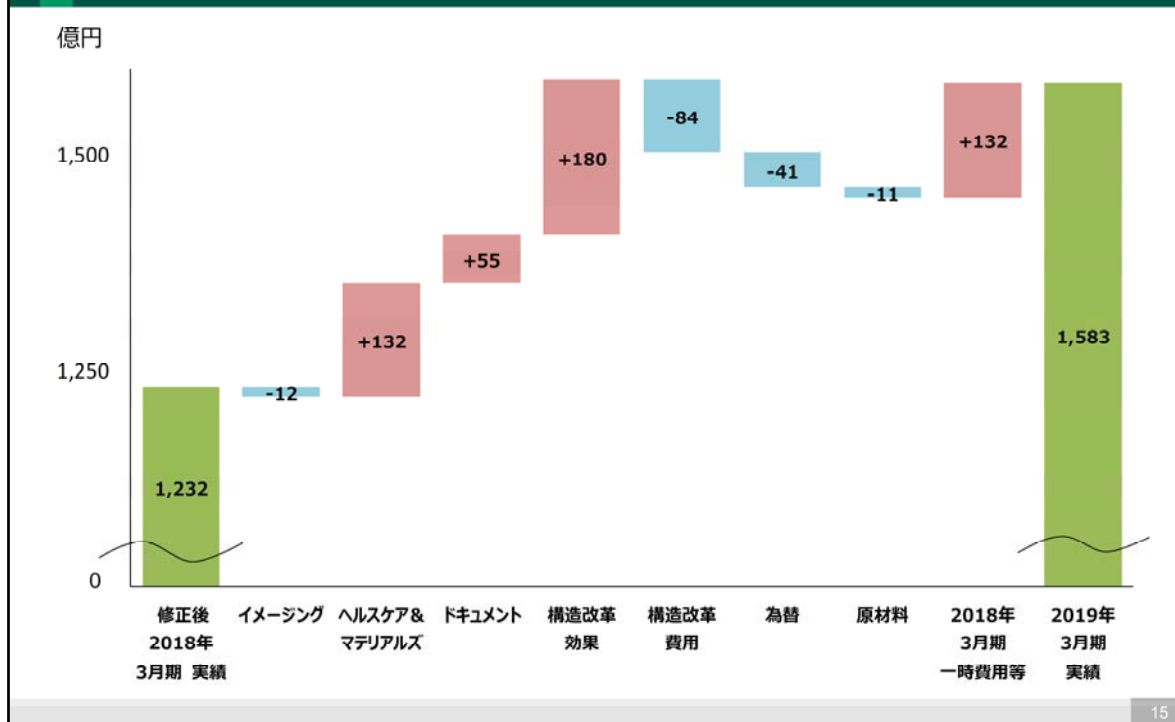
事業活動による利益目標の達成に加え、株主還元を強化してまいります。

以上、2019年3月期通期業績予想についてご説明いたしました。

2019年3月期 第3四半期 決算説明会

参考資料

営業利益増減分析(対前年9カ月累計実績)



<当スライドは配付資料です>

3Q/9か月 業績

(単位：億円)

	3Q			9か月累計		
	修正後 2018年3月期	2019年3月期	対修正後 2018年3月期	修正後 2018年3月期	2019年3月期	対修正後 2018年3月期
売上高	6,218 100.0%	6,271 100.0%	53 +0.9%	18,097 100.0%	17,998 100.0%	-99 -0.5%
営業利益	509 8.2%	744 11.9%	235 +46.5%	1,232 6.8%	1,583 8.8%	351 +28.6%
税金等調整前 四半期純利益	743 12.0%	558 8.9%	-185 -25.1%	1,745 9.6%	1,546 8.6%	-199 -11.4%
当社株主帰属 四半期純利益	536 8.6%	356 5.7%	-180 -33.7%	1,245 6.9%	1,011 5.6%	-234 -18.8%
為替 : 米ドル	113円	113円	-	112円	111円	1円高
: ユーロ	133円	129円	4円高	129円	129円	-

<その他増減要因 (3Q/9か月対前年度) > 営業利益 原材料 : +3億円 / -11億円

16

<当スライドは配付資料です>

3Q/9か月 業績

(単位：億円)

売上高	3Q			9か月		
	2018年 3月期	2019年 3月期	対前年度	2018年 3月期	2019年 3月期	対前年度
イメージング	1,229	1,279	50 (+4.1%)	2,977	3,038	61 (+2.1%)
ヘルスケア	1,083	1,195	112 (+10.1%)	3,091	3,429	338 (+10.9%)
ヘルスケア&マテリアルズ	2,475	2,599	124 (+5.0%)	7,283	7,589	306 (+4.2%)
ドキュメント	2,514	2,393	-121 (-4.8%)	7,837	7,371	-466 (-5.9%)
合計	6,218	6,271	53 (+0.9%)	18,097	17,998	-99 (-0.5%)

*セグメント間取引消去後

(単位：億円)

営業利益 [営業利益率]	3Q			9か月		
	修正後 2018年 3月期	2019年 3月期	対前年度	修正後 2018年 3月期	2019年 3月期	対前年度
イメージング	261 [21.2%]	264 [20.6%]	3 (+1.1%)	499 [16.6%]	480 [15.7%]	-19 (-3.8%)
ヘルスケア	52 [4.8%]	150 [12.5%]	98 (2.9倍)	64 [2.1%]	174 [5.1%]	110 (2.7倍)
ヘルスケア&マテリアルズ	227 [9.2%]	325 [12.5%]	98 (+43.2%)	598 [8.2%]	700 [9.2%]	102 (+17.0%)
ドキュメント	101 [4.0%]	236 [9.9%]	135 (2.3倍)	367 [4.7%]	669 [9.0%]	302 (+82.2%)
全社/連結調整	-80	-81	-1 -	-232	-266	-34 -
合計	509 [8.2%]	744 [11.9%]	235 (+46.5%)	1,232 [6.8%]	1,583 [8.8%]	351 (+28.6%)

17

<当スライドは配付資料です>

3Q/9か月 業績

■ イメージング ソリューション

(単位：億円)

売上高	3Q				9か月			
	2018年 3月期	2019年 3月期	対前年度	為替影響除く	2018年 3月期	2019年3 月期	対前年度	為替影響除く
			(%)				(%)	
フォトイメージング	884	908	24 (+2.7%)	38 (+4.4%)	2,008	2,037	29 (+1.5%)	47 (+2.4%)
電子映像	246	266	20 (+8.0%)	28 (+11.1%)	683	707	24 (+3.5%)	32 (+4.7%)
光学デバイス	99	105	6 (+6.4%)	7 (+7.4%)	286	294	8 (+2.7%)	9 (+3.0%)
光学・電子映像	345	371	26 (+7.6%)	35 (+10.0%)	969	1,001	32 (+3.3%)	41 (+4.2%)
合計	1,229	1,279	50 (+4.1%)	73 (+5.9%)	2,977	3,038	61 (+2.1%)	88 (+2.9%)

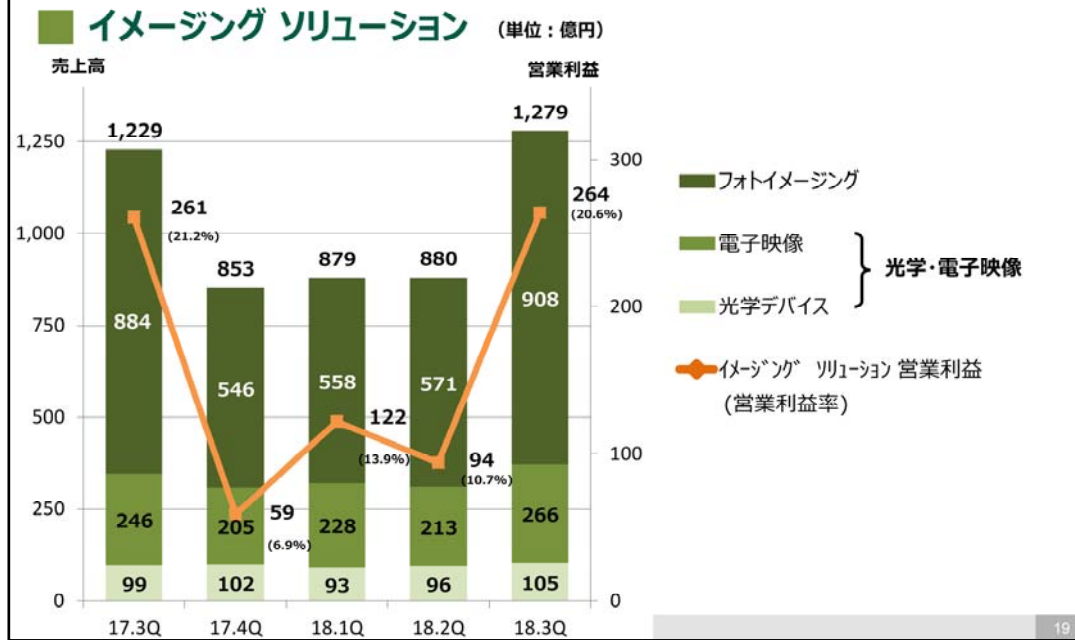
*セグメント間取引消去後

(単位：億円)

営業利益 【営業利益率】	3Q				9か月			
	修正後 2018年 3月期	2019年 3月期	対前年度	為替影響除く	修正後 2018年 3月期	2019年 3月期	対前年度	為替影響除く
			(%)				(%)	
イメージング	261 [21.2%]	264 [20.6%]	3 (+1.1%)	15 (+5.9%)	499 [16.6%]	480 [15.7%]	-19 (-3.8%)	-8 (-1.6%)

<当スライドは配付資料です>

セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移



<当スライドは配付資料です>

3Q/9ヵ月 業績

■ ヘルスケア&マテリアルズ ソリューション

(単位：億円)

売上高	3Q				9ヶ月			
	2018年 3月期	2019年 3月期	対前年度	為替影響除く	2018年 3月期	2019年 3月期	対前年度	為替影響除く
ヘルスケア	1,083	1,195	112 (+10.1%)	126 (+11.4%)	3,091	3,429	338 (+10.9%)	362 (+11.7%)
ディスプレイ材料	261	263	2 (+0.8%)	2 (+0.8%)	731	770	39 (+5.4%)	39 (+5.4%)
産業機械/電子材料	434	467	33 (+7.5%)	37 (+8.3%)	1,284	1,344	60 (+4.6%)	63 (+4.9%)
ファインケミカル								
高機能材料	695	730	35 (+5.0%)	39 (+5.5%)	2,015	2,114	99 (+4.9%)	102 (+5.0%)
記録メディア	83	92	9 (+11.3%)	10 (+11.9%)	304	272	-32 (-10.4%)	-30 (-9.9%)
グラフィックシステム/インクジェット	611	578	-33 (-5.1%)	-24 (-3.5%)	1,867	1,764	-103 (-5.4%)	-93 (-4.9%)
その他	3	4	1	0	6	10	4	3
合計	2,475	2,599	124 (+5.0%)	151 (+6.1%)	7,283	7,589	306 (+4.2%)	344 (+4.7%)

*セグメント間取引消去後

(単位：億円)

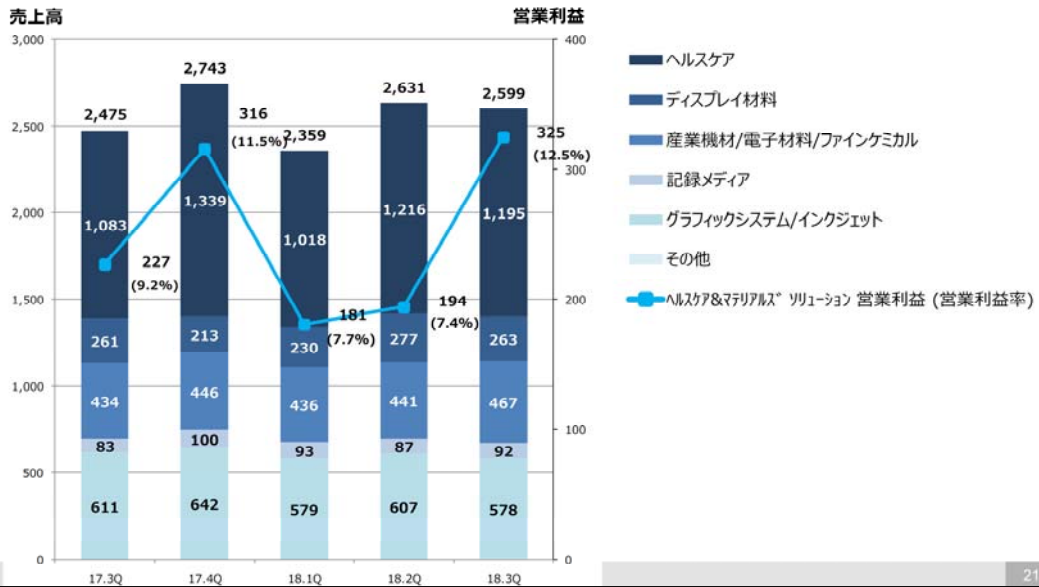
営業利益 【営業利益率】	3Q				9ヶ月			
	修正後 2018年 3月期	2019年 3月期	対前年度	為替影響除く	修正後 2018年 3月期	2019年 3月期	対前年度	為替影響除く
ヘルスケア	52 [4.8%]	150 [12.5%]	98 (2.9倍)	104 (3.0倍)	64 [2.1%]	174 [5.1%]	110 (2.7倍)	120 (2.9倍)
ヘルスケア&マテリアルズ	227 [9.2%]	325 [12.5%]	98 (+43.2%)	106 (+46.7%)	598 [8.2%]	700 [9.2%]	102 (+17.0%)	117 (+19.5%)

20

<当スライドは配付資料です>

セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移

■ ヘルスケア&マテリアルズ ソリューション (単位：億円)



<当スライドは配付資料です>

3Q/9か月 業績

■ ドキュメント ソリューション

(単位：億円)

売上高	3Q				9ヶ月			
	2018年 3月期	2019年 3月期	対前年度	為替影響除く	2018年 3月期	2019年 3月期	対前年度	為替影響除く
オフィスプリンター	343	315	-28 (-8.2%)	-25 (-7.5%)	1,120	942	-178 (-15.9%)	-169 (-15.1%)
オフィスプロダクト&プリンター	1,462	1,393	-69 (-4.7%)	-55 (-3.7%)	4,566	4,256	-310 (-6.8%)	-283 (-6.2%)
プロダクションサービス	309	291	-18 (-5.9%)	-13 (-4.4%)	981	907	-74 (-7.5%)	-67 (-6.8%)
ソリューション&サービス	628	600	-28 (-4.6%)	-21 (-3.4%)	1,913	1,843	-70 (-3.7%)	-54 (-2.8%)
その他	115	109	-6	-3	377	365	-12	-7
合計	2,514	2,393	-121 (-4.8%)	-92 (-3.6%)	7,837	7,371	-466 (-5.9%)	-411 (-5.2%)

* **セグメント間取引消去後

(単位：億円)

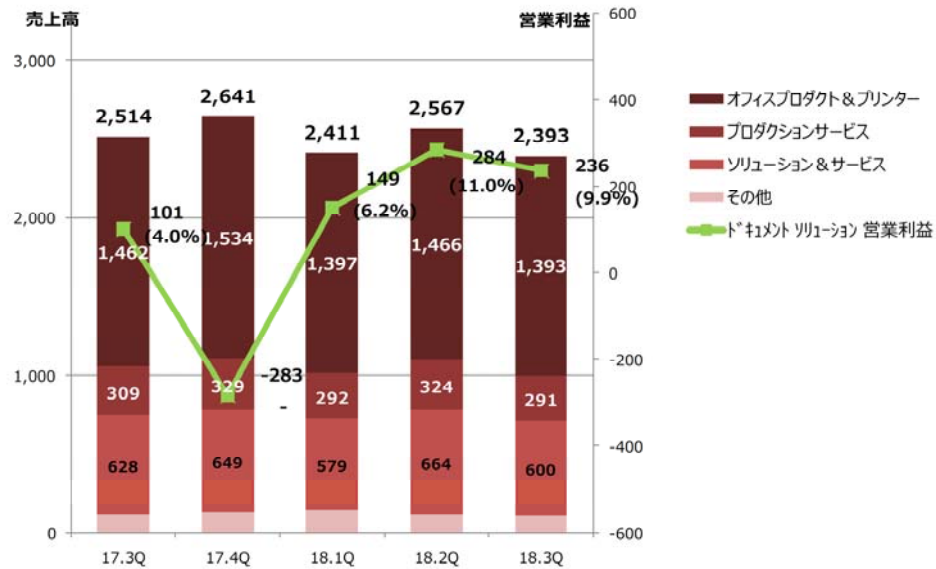
営業利益 [営業利益率]	3Q				9ヶ月			
	修正後 2018年 3月期	2019年 3月期	対前年度	為替影響除く	修正後 2018年 3月期	2019年 3月期	対前年度	為替影響除く
ドキュメント	101 [4.0%]	236 [9.9%]	135 (2.3倍)	151 (2.5倍)	367 [4.7%]	669 [9.0%]	302 (+82.2%)	317 (+86.2%)

22

<当スライドは配付資料です>

セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移

■ ドキュメントソリューション (単位: 億円)



<当スライドは配付資料です>

国内・海外別連結売上高

(単位：億円)

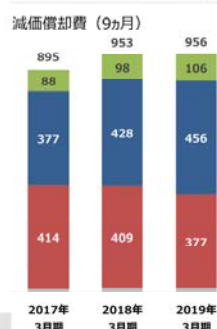
	2018年3月期 9ヶ月		2019年3月期 9ヶ月		対前年度	
	構成比(%)		構成比(%)			
日本	40.5%	7,335	40.3%	7,247	-88	(-1.2%)
米州	19.6%	3,541	19.6%	3,537	-4	(-0.1%)
欧州	12.9%	2,331	13.2%	2,371	40	(+1.7%)
内、中国	12.4%	2,242	12.6%	2,260	18	(+0.8%)
アジア他	27.0%	4,890	26.9%	4,843	-47	(-1.0%)
海外	59.5%	10,762	59.7%	10,751	-11	(-0.1%)
合計	100.0%	18,097	100.0%	17,998	-99	(-0.5%)

24

<当スライドは配付資料です>

設備投資、減価償却費

設備投資（9ヵ月）



(単位：億円)

年度	3Q			9ヶ月			通期		
	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期(予想)
イメーシング	22	24	16	74	62	67	103	94	
ヘルスケア&マテリアルズ	71	102	112	247	273	300	401	427	
ドキュメント	46	37	32	149	119	79	200	138	
コーポレート	4	4	15	9	9	19	14	16	
設備投資 ※	143	167	175	479	463	465	718	675	800
イメーシング	30	33	36	88	98	106	111	133	
ヘルスケア&マテリアルズ	130	146	159	377	428	456	491	575	
ドキュメント	139	153	122	414	409	377	553	547	
コーポレート	6	5	7	16	18	17	21	21	
減価償却費	305	337	324	895	953	956	1,176	1,276	1,280
有形固定資産の減価償却費 ※	148	166	175	437	494	509	589	665	

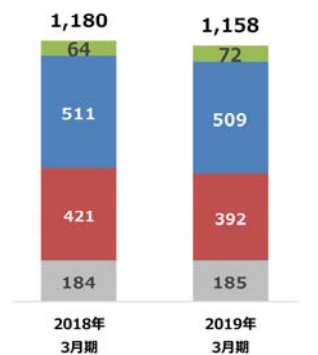
※ ドキュメントソリューション部門等のレンタル資産を除く。

- イメーシングソリューション
- ヘルスケア&マテリアルズソリューション
- ドキュメントソリューション
- コーポレート

<当スライドは配付資料です>

研究開発費、販売費及び一般管理費

研究開発費（9ヵ月）



■ イメーシングソリューション
 ■ ヘルスケア&マテリアルズソリューション
 ■ ドキュメントソリューション
 ■ コーポレート

(単位：億円)

年度	3Q		9ヶ月		通期	
	2018年 3月期	2019年 3月期	2018年 3月期	2019年 3月期	2018年 3月期	2019年 3月期 (予想)
イメーシング	23	23	64	72	90	
ヘルスケア&マテリアルズ	167	159	511	509	700	
ドキュメント	136	120	421	392	635	
コーポレート	61	61	184	185	254	
研究開発費	388	363	1,180	1,158	1,679	1,610
<売上高比>	6.2%	5.8%	6.5%	6.4%	6.9%	6.5%
販売費及び一般管理費	1,652	1,568	4,867	4,803	6,778	
<売上高比>	26.6%	25.0%	26.9%	26.7%	27.9%	

26

<当スライドは配付資料です>

為替、原材料価格、人員

為替

(単位：円)

	2018年3月期						2019年3月期				
	1Q	2Q	3Q	9ヶ月	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	9ヶ月	通期(予想)
米ドル	111	111	113	112	108	111	109	111	113	111	111
ユーロ	122	130	133	129	133	130	130	130	129	129	130

原材料価格 (平均)

(単位：千円/kg)

	2018年3月期						2019年3月期				
	1Q	2Q	3Q	9ヶ月	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	9ヶ月	通期(予想)
銀	63	60	61	61	58	61	58	54	53	55	57

人員

(単位：人)

	2017.12末	2018.3末	2018.6末	2018.9末	2018.12末
連結	80,067	77,739	77,060	75,329	74,425

<当スライドは配付資料です>

会計基準変更に伴う2018年3月期営業利益の修正

(単位：億円)

営業利益	修正前 2018年3月期				
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
イメージング	126	113	261	60	560
ヘルスケア	-8	27	55	133	207
ヘルスケア&マテリアルズ	189	191	232	316	928
ドキュメント	117	174	114	-265	140
全社/連結調整	-74	-77	-80	-90	-321
合計	358	401	527	21	1,307

(単位：億円)

営業利益	修正後 2018年3月期									
	1Q	差異	2Q	差異	3Q	差異	4Q	差異	通期	差異
イメージング	125	-1	113	0	261	0	59	-1	558	-2
ヘルスケア	-12	-4	24	-3	52	-3	133	0	197	-10
ヘルスケア&マテリアルズ	185	-4	186	-5	227	-5	316	0	914	-14
ドキュメント	104	-13	162	-12	101	-13	-283	-18	84	-56
全社/連結調整	-73	1	-79	-2	-80	0	-91	-1	-323	-2
合計	341	-17	382	-19	509	-18	1	-20	1,233	-74

28

<当スライドは配付資料です>

2019年3月期 セグメント別業績予想 (2019年2月7日時点)

(単位：億円)

売上高	2018年 3月期	2019年 3月期	対前年度
イメージング	3,830	4,000	170 (+4.4%)
ヘルスケア	4,430	4,850	420 (+9.5%)
マテリアルズ	5,596	5,750	154 (+2.8%)
ヘルスケア&マテリアルズ	10,026	10,600	574 (+5.7%)
ドキュメント	10,478	10,100	-378 (-3.6%)
合計	24,334	24,700	366 (+1.5%)

*セグメント間取引消去後

営業利益	修正後 2018年 3月期	2019年 3月期	対前年度
イメージング	558	600	42 (+7.5%)
ヘルスケア	197	230	33 (+16.8%)
マテリアルズ	717	700	-17 (-2.4%)
ヘルスケア&マテリアルズ	914	930	16 (+1.8%)
一時費用除く営業利益	784	1,070	286 (+36.5%)
構造改革費用等一時費用	-700	-250	450 -
ドキュメント	84	820	736 (9.8倍)
全社/連結調整	-323	-350	-27 -
合計	1,233	2,000	767 (+62.2%)

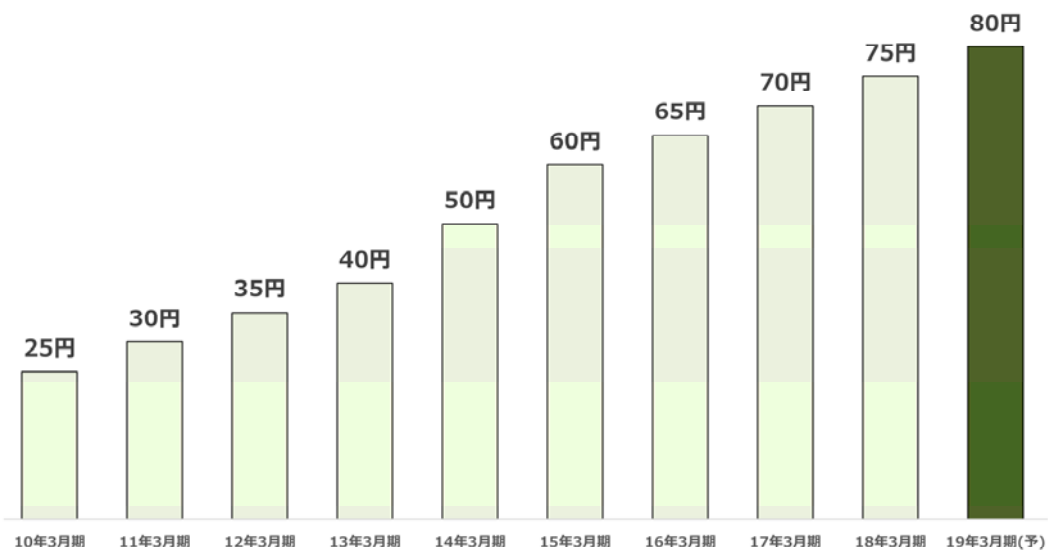
29

<当スライドは配付資料です>

株主還元

■ 配当金

2019年3月期の配当金は、9期連続増配となる対前年5円増配の80円/株を予定



<当スライドは配付資料です>

パイプライン (2019年2月7日時点)

開発番号	薬効・適応症	剤形	地域	開発段階
T-705	抗インフルエンザウイルス薬	経口	日本	承認済み
			米国	Ph III
	重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) 治療薬	経口	日本	Ph III
T-3811	キノロン系合成抗菌薬	経口	中国	承認申請中
T-2307	抗真菌薬	注射	米国	Ph I
T-817MA	アルツハイマー型認知症治療薬	経口	米国	Ph II
			日本	Ph II
T-4288	新規フルオロケトライド系抗菌薬	経口	日本	Ph III
FF-10501	骨髄異形成症候群治療薬	経口	日本	Ph I
			米国	Ph II
FF-10502	進行・再発固形がん治療薬	注射	米国	Ph II
FF-21101	進行・再発固形がん治療薬 (Armed抗体)	注射	米国	Ph I
F-1311	前立腺がん診断薬 (放射性医薬品)	注射	日本	Ph II
FF-10101	急性骨髄性白血病治療薬	経口	米国	Ph I
F-1515	神経内分泌腫瘍治療薬 (放射性医薬品)	注射	日本	Ph I / II
FF-10832	進行性固形がん治療薬 (ゲムシタピンボソーム)	注射	米国	Ph I
F-1614	難治性褐色細胞腫治療薬 (放射性医薬品)	注射	日本	Ph II

※持分法適用会社の協和キリン富士フィルムバイオロジクス(FKB)のFKB327(アタリムマブバイオシミラー)は、欧州発売(Mylan社と販売提携)、その他申請準備中。FKBとアストラゼネカ社のJVのFKB238(ベバシズマブバイオシミラー)は、米国、欧州、その他でPh III実施中。

31

<当スライドは配付資料です>

参考情報

富士フィルムホールディングス 株主・投資家情報

<http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/index.html>

富士フィルムホールディングス 統合報告書2018

https://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/ir_library/integrated_reports/index.html

IRイベント資料

http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/ir_events/business_presentations/index.html

・事業説明会資料

- 2017年 3月 エレクトロニクスマテリアルズ事業説明会
- 2018年 3月 イメージングソリューション事業説明会
- 2019年 1月 医薬品・バイオCDMO・再生医療事業説明会

富士フィルムってどんな会社？

http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/individual_guidance/index.html

グローバルブランディングキャンペーン「NEVER STOP」

<https://brand.fujifilm.com/neverstop/jp>

<当スライドは配付資料です>

FUJIFILM

Value from Innovation

富士フィルムは、生み出しつづけます。

人々の心が躍る革新的な「技術」「製品」「サービス」を。

明日のビジネスや生活の可能性を拓けるチカラになるために。

富士フィルム ホールディングス株式会社

経営企画部 コーポレートコミュニケーション室

<http://www.fujifilmholdings.com>